

羽 政 政 号
平成20年10月15日

国土交通省道路局長 様

羽幌町長 舟橋泰博



今後の道路行政についての意見・提案の提出について(回答)

標記の件について、別紙の通り提出します。

羽幌町 政策推進課 政策調整係
〒078-4198 羽幌町南町1番地1
電話 0164-62-1211 内線 224
FAX 0164-62-1219
e-mail: seisaku@town.haboro.hokkaido.jp

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案

道路整備の効率化、重点化への取り組みについて意見を述べます。

一つは道道、市町村道との一体管理による効率化です。住民は道路管理に於いてサービスには感謝しているものの、場面によってはなぜ国と道、市町村が別々に作業を行っているのか、効率が悪いのではないかと無駄なのではと考えている方も多いと思います。

市街地部分は市町村が担当し、国道における市街地を除く沿線は道路ネットワーク上開発局と道が連携し効率の良いサービスを提供することも一方法ではないかと考えます。

二つ目は、道路整備における地元意見の吸収や優先順位等計画の住民公表が必要ではないかということです。近年マスコミは行き止まりのトンネルや人や車の減多に通らない道路、橋など公共事業の無駄な投資についてキャンペーンを行っています。又、政府もこの財政難のなかで費用対効果を見極め真に必要な道路の整備が必要であるとしています。住民にとって本当に必要な道路、橋の整備について住民や、市町村、関係する産業団体の方々との議論を基に優先順位や事業計画を公表するなど一層の透明化が必要ではないでしょうか。

②地域の目指すべき将来像

基幹産業発展のための物流ネットワークとそれを支える道路の高速ネットワークの重要性について意見を述べます。

羽幌町の基幹産業である農業、漁業とともに観光産業において、この圏域と道内とを結ぶ幹線道路や高規格道路などの整備が遅れることは、地域振興における生命線が細くなることと同じ意味を持っております。安全・安心な交通網の整備はもとより、物流ネットワークを支える礎として管内町村にとって将来への展望を開くものと期待しています。

③地域の現状と抱える課題

個々の医療機関と地域センター病院とのネットワーク機能や役割分担を担う際の基盤として圏域全体で地域医療を守る広域連携に道路ネットワークは欠かせないものとなっております。とりわけ今日の医療体制を見るとき、過疎地であるが故の命の軽さが問題となっています。心疾患や脳疾患、あるいは交通事故等一刻を争う診療が必要なとき病院までのアクセス時間の短縮が求められます。このように医療過疎や救急医療問題など地域が取り組む課題は多く、その中で道路の持つ割合は大きいものがあります。この現状を打開するためにも道路整備の重要性を訴えます。

次に海の国道といわれる羽幌町本土と天売島、焼尻島の離島を結ぶ航路について意見

を申し上げます。そもそも離島航路は海上における国道として重要な役割を担っており、離島航路補助金について単に収支率をもって欠損補助額をカットすることは、ますます過疎化が進行するなかでの航路の安定経営化に水を差すこととなります。離島地域や航路の特殊性を勘案し、補助基準の見直しなど海の国道を維持するための離島航路補助金の一層の改善を要望します。

④道路施策の重点事項

- ・高規格道路による整備によらない幹線道路の一部片側2車線化の推進について

現在交通量が多く、交通事故等が多い道路においても、道路を拡幅するための用地買収や整備費の多さから、1車線のまま未整備状態が続いている箇所も多いと思います。そういう箇所を重点的に一部片側2車線化し整備することによって、高規格道路と同様の効果が発揮されるのではないかと考えます。安全・安心な道路で、費用対効果の高い道路作りが求められています。

- ・冬期間や災害時にも安全・安心な交通網の整備

北海道の道北地域では、冬期間の吹雪による通行止めや、車が道路上の吹きだまり、雪崩によって車中で命を落とすなどの事故が発生しています。また、留萌管内の国道は海岸線のため、時化による波浪で道路決壊が発生することもあり、落石箇所の多さを含め安全・安心な道路環境にあるとは言えません。ひとたび通行止めが発生すると国道に変わる代替道路はなく、経済活動や救急救命活動に支障を来すこととなります。より安全・安心な道路造りが求められます。

- ・老朽、狭隘橋梁の整備について

産業振興に欠かせない物流や救急医療の広域化を進めるにあたって道路ネットワークにおける安全性を確保するうえで、羽幌町においては老朽、狭隘橋梁の整備が最重要課題となっております。国道232号にかかる「築別橋」は昭和35年に車道5.5m、長さ180m、これまで47年を経過しております。稚内方面と札幌方面を結ぶオロロンラインルートの動脈として大型車両も多く通過しております。また、歩道がなく歩行者の安全はより危険度の高いものとなっております塩害が原因による老朽化も進んでいます。平成20年度から調査が行われ、安全安心な通行を確保するための第一歩がスタートしたところです。橋の改築は広く観光や物流関係者の願いであり、早急な整備促進を要望します。